

高岡市総合計画審議会 第5回総会 会議要旨

日 時 令和8年6月25日（木） 午後6時30分～午後8時
場 所 高岡市役所8階802会議室

1 開会

2 市長あいさつ

《市長》

会長をはじめ、委員の皆様には、令和7年8月の諮問以来、活発なご議論をいただき深く感謝申し上げます。令和8年3月に答申いただいた基本構想については、6月定例会に提出し、現在、議会のご審議をいただいているところ。時代が刻々と変化していく中においては、行政も、市民も、絶えず変化し続けていくことが必要であり、この基本構想は、高岡の発展を目指していくための拠り所となると信じている。

今回、基本構想では、5つの基本的な方針をご提示いただいた。本日の総会においては、これらの基本的な方針を踏まえ、具体的な取組を示す「基本計画」についてご審議をいただき、将来の高岡のため十分にご議論くださるようお願い申し上げます。

3 議事

- (1) 第5次基本計画の「現状と課題」及び「施策の展開」について
- (2) その他

《委員》

部会では、自治会のなり手不足や役員不足という話があった。私からも除雪に対する市民の意識改革が必要だという意見を出させていただいた。雪国で生活していく上での意識の持ち方は重要である。大雪の際に外出し、スタックして除雪車を停めてしまうことがある。雪が降るから外出を控えようという意識があれば除雪も進む。

自治会の役員を引き受けたら、企業はその方の給料やボーナスなどにインセンティブを設けるのはどうかと意見した。この場に集まっている人だけではなく、市民一人ひとりが、ちょっと意識を変えるだけで高岡市が良くなるという意見が出て本当にそうだった。

消防団の企業協力事業所というものがあるが、自治会役員についても、企業協力事業所という制度があっても面白いという意見や市民の意識改革をできればいいという意見を出させていただいた。

《参与》

事務局から、資料No.2 高岡市の将来人口の推計について、それぞれのケースで最終的に1万5000人程の差が出るとの説明があった。人口減少を前提に、これからの議論を進めていただきたい。

市議会においても呉西6市の連携に力を入れている。将来的には人口が減っていく中で、こ

こまでが高岡市というような市域を分ける時代ではなくなることも考えられる。仕事をする上でも、6市連携をしっかり念頭に置いてやっていく時代が必ず来ると考えている。そういう意味では、行政も、市民もいろんな形で連携をとって、助け合えるところは助け合い、これから5年、10年先を考えていただきたい。

《委員》

「歴史や文化に彩られた魅力があふれている」という、交流・観光分野の施策の展開、現状と課題を拝見したが、美術館や博物館という言葉が出てこなかった。博物館も美術館も高岡市の中では長い歴史があつて、学芸員の方たちが市の歴史、美術を支えてきて、それをまた市民の皆様が見ることで、文化に関する知識や感性の向上に努めていると思う。具体的なものが、現状と課題や施策の展開に記載されると良い。

《委員》

毎年、県内在住の外国人の数は過去最高を記録しており、今年の1月1日時点で約25,000人、全人口の約2.7%であった。高岡市でも、現在県内2番目に在留外国人が多く、比率的にも約2.9%で平均よりも上回る。今後も日本人住民の人口数が減っていく中で相対的に外国人住民の比率が増えていくことは当然予想される中で、いかに寄り添っていくかが大事になる。

国際センターにおいては令和元年度からワンストップの相談支援センターを設けており、医療関係、教育関係、あるいは税金の関係など、いろいろと相談対応している。言語的にはポルトガル語、ブラジルの方の相談が依然として多い。特に言葉の問題が大きく、民間支援グループの方々にも活躍してもらっている。行政、国際センター、民間団体と力を合わせて取り組んでいけばと思う。

市民アンケートを拝見させていただいた。高岡市への愛着、誇りや、高岡市での継続居住意向など書かれていた中では、「ずっと住み続けたいと感じる」という部分をいかに増やしていくかということが大事だと思う。これは、愛着や誇りが大事というだけではなくて、他の人に来てください、住んでください、こどもたちに高岡に住み続けほしいといったことに繋がると思うので、ぜひこの部分を伸ばしていただきたい。

《委員》

高岡は魅力あるまちだと思う。市内を歩くと山町筋もあり、歴史文化に彩られた本当に良いまちだと思う。こういう魅力を全国、また世界に発信していただきたい。知られていないのはもったいない。国宝もあり、いろんな魅力的な場所、食文化もある。新幹線もできて、身近になっているので、ぜひこの魅力を発信していただければと思う。

《委員》

基本構想と基本計画がどのように5つの方針とリンクしてくるのかというところ。「住みたいまち高岡」を軸として、政策分野を設けられているが、これらがどのように繋がるのか可視化されれば、施策とのリンクが見えてくるのでは。

人口減少下において、こどもの数も減ってきてはいるが、保育・幼稚園では0～2歳児の二

ーズは非常に高い。市民アンケートでも、特に乳幼児期のサービスの拡充が重要視されており、思い切ったことを言えば、保育料を無償にするなど、子育てに特化した政策を打ち出せば、子育て世代に選ばれる市になり、住みやすいと感じてもらえる。方針の中にもいろいろ書かれているが、地域全体で、このまちで産みたい、育てたいと思えるような空気感を出していく。特に企業が取り組むべきだと思う。例えば、スーパーのレジで子育てレーン設けるなど、こどもが中心となっている空気感を出していけば、このまちで産みたい、育てたいと思える、そういうまちになると思う。

《委員》

観光客は年々増加している状況である。来ていただいた方に移住定住していただけるような方法を考えなければいけない。そのためには、1度来てもらうことが重要だが、来てもらうというのなかなかハードルが高い。

今では、パンフレット等を作って配れば見てもらえる時代ではなくなった。SNSが一気に加速したので、動画やSNSの配信で、1回行ってみたいよね、あそこに行こうと、個人で観光する状況になっている。旅行者の動向は、道の駅のレジを通った数など、団体旅行では掴みやすいが、個人旅行ではなかなか難しい。

富山県に来る人数は増加傾向にあることから、魅力が発信できていないわけではないが、そのあとに繋がるような行動までは、今私たちは取れていない現状がある。せっかく来ていただいた人たちが、どうしてそこに定住するかという点にも注目していかなければいけない。

金沢市、高山市など、富山県の隣県にはオーバーツーリズムの状態の場所が複数ある。一方、高岡の魅力が、そこに劣るものなのかというと決してそうではない。ただ、知られていなかったり、点在している観光資源を伝えきれていなかったりということもある。金沢、高山からタクシーでも来られるような富裕層の人たちをいかに惹きつけていく魅力が発信できるかは、非常に重要。高岡は、交通の部分でも非常に良い場所なので、こうした点も含めて、もっと発信できるような体制を作っていきたい。

《委員》

基本構想、基本計画と進んでいく中で、高岡の成り立ち、特色、課題とか、これから高岡の説明がある。それぞれの分野の計画にもこうした項目が出てきているが、急に色々なことが並立になってしまって、どこに力入れていきたいのか見えなくなっているのはもったいない。

例えば、歴史や文化に強みがある市なので、ここは大事にしていこうとか、若者やこどもたちが愛着を持って住んでいけるような点が足りないというアンケート結果が出ていたのであれば、ここにも力を入れないといけないなど、メリハリがついたまとめ方、伝え方ができるとより良い計画になるのではないかと感じた。

《委員》

資料No. 3-2の1ページ目、交流・観光分野の中に、芸術・文化活動の推進とある。その欄には、万葉、伝統工芸、ものづくり、伝統芸能、華道、茶道など、一言で文化と言ってもこれだけ多くの分野がある。意見概要をみると、「市民、芸術文化の分野について市民が、その価値を理

解していない課題がある」と記述してあるが、これは、文化を一括りで考えている高岡市の発信の仕方が間違っていると思う。文化には、これだけの分野があることを理解していただいて、しっかりと発信の仕方を考えていただければ、こういった意見は出てこないと思う。

雪の話については、雪の魅力を発信していくことで、それを見に来られる県外の方もいるのではないかと。除雪の件に関しても、自助、共助という考えのもと、自分のできることは自分でやるということもすごく大切だと思う。

《委員》

専門部会の中でも、労働者目線で意見させていただいたが、地域の働きやすい環境づくりなどは、やはり企業の努力や思いが反映してこそそのものであると思っている。

企業が前向きに進めるところや、また個人としても考え方を変えていく中で、市がバックアップしてくれているという後方支援的な動きも期待したい。その中で、働く側の人間もできることを考えながら、進んでいく必要があると今回参加させていただきながら感じている。

《委員》

こどもの数は減っており、医療の必要なこども、発達障害のこども、不登校のこどもが増えているということは、課題だと思っている。

市民アンケートの5ページの中で一番割合が低いのは、「市民・団体・企業の繋がりによる地域社会が築かれているまち」で4.2%、その下の集計表のところでも、やはり満足度も重要度も低い結果となっている。人口減少社会の中で、例えば災害が起こったとき、障がい者、高齢者、こどもは、地域・市民の繋がりがないと、避難などの対応は難しい。

4ページでは、「安心して生活できる環境があるまち」が、高い割合になっている。防災や交通安全といった分野は、市民・団体・企業の繋がりが少ないという点も含めて考えると、行政や他人頼りの安心ということを感じるが、自分たちの繋がりで、自分たちで何かをしていこうという意思が少ないのかなと見ていた。

資料 No. 1、次期高岡市総合計画の基本構想の基本的な方針、「静かな愛着と誇りを、責任感と主体性へ」というところも、これまで行政が担ってきた機能や役割を市民主体の活動で補完していく構造転換が求められていると書いているので、そういう繋がりを自分たちで作る、何とかしていかなければならないという、未来志向の市民性を形成していくということが必要。

《委員》

公民館は、今までは割と型にはまった運営や使い方が多かったが、営利を伴う事業関連としても使って良いなど、少し幅が広がったことで非常に利用度が高くなった。また、関心が高まったことで、3世代交流等のいろいろな企画をして、とても大事な拠点となっていると地域の話も聞く。

雪については、スコップが横断歩道の信号機のところに置いてある。やはり雪国、高岡ならではの、できる人がやりましょうという精神が大事だと思う。大人が雪かきをする姿を見て、学生たちも雪かきをしていくということで、やはりいろんな人がいろんなところで何かをすることがある。その人の存在感があるというような、そういうものが見えることは大事だと思う。

大雪のときにも車を出さざるをえない人もいるかもしれないが、そこは、近所で声をかけ合って、「こんなときは行かないほうがいいよ」、「私がついでに行きましょうか」、といった繋がりが大事かと思う。共助の前に近所というのがあるのかなと、よく新田知事が言っておられたが、声をかけ合って、となり近所から、安全を保っていくことも大事かと思う。

《委員》

農業は今、問題点がたくさんある。後継者不足、農業従事者の高齢化、非常に労働力が少なくなってきており、廃業する方もいる。特産物のブランド化などにも力を注ぎながら、農業を産業観光としてのイベントにできないかなど考えてはいるが、なかなか現実的には難しい。各農業団体など、いろいろなところに、こういったことはできないかと働きかけている。将来的に農業で定着できる形になればいいなと思っている。

個人的な話だが、歴史が非常に好きで、高岡市には源平合戦の古戦場があるなど、魅力ある場所もたくさんあると感じている。こうしたことも、しっかり発信できればと思っている。

《委員》

先ほど自治会の役員のなり手不足の話があったが、大前提になるのは、市民が自分ごととしてとらえて、自治会に自分が参加をしていかないと成り立たないということ。いろんな団体があるが、地縁組織は自治会だけ。住民が生活していく上で、自治会がまとまりを持たないと、いざという時に身動きが取れないということを能登半島地震で経験した。今一度、理解してもらわなければならない。

先般、水害における情報伝達訓練を実施した。7割近くの自治会長が、班長に指示を出しながら動いてくれた。人口減少下においては、自治会長からの指示を、地元の住民で受ける仕組みを作り上げなければならない。

役割分担をもう一度見直しましょう、住民が受けましょうという表現になっているが、自分事ということを大前提に、これからの人口減少、高齢化によって、ほとんど75歳以上の役員しかいない状況を見直していかなければならない。

《委員》

基本構想の「住みたいまち高岡」は、一人ひとりが思うことだと思う。住みたいまちとは、どんなまちだろうと考えたとき、先ほど意見があったように、この5つの基本的な方針の中に、住みたいと思える項目があるのかが大切になってくる。どこを一番アピールしていくのか、検討したほうが良いのでは。

市域を超えた推進ということで、専門人材の積極登用等と書いてある。せっかくこちらに帰ってきたときに、専門的な知識や技術を持っているのに、全く声がかからなかったと聞くことがある。埋もれている資源というものを、実はまだ発掘できていないとも考えられるので、有名な市外の人を登用することも大事かと思うが、実はまだ知られていない市内の方の登用も大事では。

《委員》

これから社会に飛び出していく若い人たちに関しての言及があまりないと感じる。子育てはすごく大事だと思うが、子どもたちが、高校生、大学生になった時に高岡って良いなと思ってもらえるような要素も取り入れたら面白いのでは。

《委員》

市民アンケートを大変興味深く拝見した。5000 人のうち回答が半分弱ということや、若年層の回答が少ないというのは残念であり、アンケートのとり方の工夫が必要なのかなと思う。「高岡市への愛着や誇り」、「高岡市での継続居住意向」の項目について、若い方も含めて、否定的な意見が非常に少ないのは、悪くない結果だと思う。この結果をいかに前向きなところに繋げていくかが大事である。

《委員》

先ほど、6 市連携の話があったが、体育館についても、呉西 6 市でという議論があってもいい。呉西 6 市で立派な体育館だと評価されるのは、砺波市の富山県西部体育センター、氷見市ふれあいスポーツセンターの 2 つ。しかし、この 2 つは、2000 年富山国体に向けて作られた体育館で築 30 年弱になり、体育館の耐用年数 47 年に近づいてきている。高岡は呉西の中心的な都市ということを考えると、次は高岡にあるべき。新幹線から歩いて行ける体育館は、富山県には富山県総合体育館しかない。素晴らしい立地を活かし、呉西 6 市のためにも、中途半端なものは作ってはいけないと考える。

《アドバイザー》

市民アンケートの結果を拝見すると、約 6 割の方が高岡に愛着を持ち、住みよいまちだと思い、そして継続して住みたいという意見になっていることは非常にいいことだと思う。ただ 4 ページ目、2 番目の「魅力的な仕事と安心して働ける環境があるまち」であることに対しては、評価が低い。つまり、将来に対する職の不安を感じている方が多い。最近、後継者問題が叫ばれているが、本質は、後継者がいないということ以上に、後継者に引き継がせる状態に会社になっていないという現状もある。そこで、事業再生の手伝いとか、405 事業（経営改善計画策定支援事業）を活用した計画の策定、そして、借入金を減らすということまでも取り組んでいく。こういう問題も、しっかりと課題として認識し、解決しなければと思う。

それから人口減少の話。人が減るのは、若い世代の定着がないということ。その中で、肝となるのはやはり教育である。良質な雇用を創出するため、高岡の伝統産業でも、人づくりをしっかり作っていく施策を今後検討しては。

《アドバイザー》

現状と課題から考えることも大事だが、同時に未来の社会像を考えないといけない。現状と課題は、今我々にとって何が必要かを考えていくことが多い。未来の社会像を考える際には、次のこどもたちに何を残したいかという点を、ぜひ計画の中に込められるといいと思う。

まちづくり 50 年、人づくり 100 年と思っている。総合計画の中で、我々が目指すべきは、50

年後どんなまちにしたいか、100年後にどんな人が高岡にいて欲しいかということ。人口減少下において、高度な都市機能をどうやって維持していくのか。こうした点を明確に打ち出すべきだと思っている。

人づくり 100 年、そのぐらい人づくりには時間がかかるが、人を大事にするまちであって欲しい。例えば、仕事の仕方をみても、現在は個人の知識やスキルが、職にマッチしていくジョブフィットの風潮にある。カルチャーフィットという人間性、価値観がマッチしているところを大事にする考え方もある。特に最近、民間企業では人的資本経営ということが叫ばれていて、人をすごく大事にするという流れは間違いなく来ている。だからこそ、高岡の経営モデルは、人を大事にする経営だと示してみても面白い。

まちづくりについても、観光客に「あそこの町はあったかいよね」と言ってもらいたい。機能が良い、良いものがあるということだけではなく、人がよかった、あったかいと言われるまちにしたい。こうやって考えていくと最後は教育に関わってくる。知識とかスキルだけではなくて、人間性が大事である。特に知識やスキルは、AI に置き換えられていくので、人間性がすごく大事になってくるということを、ぜひ計画の中でも語っていただきたい。

《アドバイザー》

公共交通のネットワークの問題だが、現状は車社会にならざるを得ない。「公共交通を利用するライフスタイルの普及浸透」と施策にあるが、市内に移動できるような交通ネットワークをしっかりと構築することを、5年間、10年間に実現していただきたい。

これから少子高齢化、人口減少という中で、公共交通をどう維持していくか、ハードルの高い問題だと思うが、今後直面する課題であり、施策の展開の中で表現していただきたい。アンケートにも出ていたが、若者が住みたいと思えるまちづくり、若者が高岡に戻ってくることを前提としたときに、娯楽施設、仕事、商業施設がないということなので、ターゲット、スポットを当てるようにしたまちづくりが必要だと思う。

それともう 1 点、観光は点ではなくて面で、広域的に呉西の各市と連携しながらやっていくのも大事。今後、具体的に施策を展開していく中でその点も踏まえて計画を作っていただきたい。

《委員》

今後、文章を整えていくわけだが、現在、「現状と課題」、「施策の展開」の記載が細かく、施策に対応した現状と課題、さらにはその目指す姿からバックキャスト的になっていない部分も見受けられる。目指すまちの姿を基点に、現状とのギャップとして課題を導き、施策につなぐことが必要。現状と課題についても、必要なところはブラッシュアップしていければと思う。

4 閉会

(以上)